感情ステップに応じた対応でトラブルを解決

早期介入で事件化を防ぐ防犯インフラを日本社会に

近隣トラブルの相談件数は増えているものの、事件前では警察は動けない――。そんな状況にもどかしさを感じていた元警察官の田中慶太氏は、2015年にヴァンガードスミスを設立。「事件未満」に着目したトラブル対応のサブスクリプションサービスを提供している。同社では、インフラ拠点として、柔道界との連携を強化中でもある。そんな同社の取り組みに共感したというオリンピック金メダリストで柔道家の井上康生氏との対談を実施し、新たな防犯インフラ構築のために今すべきことを話し合った。

ヴァンガードスミス 代表取締役 田中慶太氏

認定特定非営利活動法人 JUDOs 理事長 井上康生氏

――まず、近年増えているという近隣トラブルについて教えてください。

田中　日本における犯罪発生率は過去20年間で5分の1程度まで下がっています。その一方で、2022年に全国の警察に寄せられた近隣トラブルなどの相談件数は年間30万件近くにのぼり、この数は年々増え続けています。刑事事件であれば警察が動けるものの、その手前にある近隣トラブルは線引きが難しく、なかなか解決できないのが現状です。

しかも、当社が首都圏の方に対して行ったアンケート（※23年2月、500人を対象に実施）では、5人に1人が近隣トラブルを経験したことがあり、そのうちの7割以上が解決までに半年以上かかった、またはまだ解決していないと回答しています。この状況は社会の仕組みとして問題がありますし、誰もが安心して暮らすためにもなんとかしなければいけません。そうした思いから、定額制のトラブル解決支援サービスを行っています。

事件未満のトラブル対策は柔道の精神にも通じる

――柔道と防犯にはどのような共通点がありますか。

田中　当社の相談員は全員が元警察官で、ほとんどが柔道経験者です。彼らには、柔道家としての強さはもちろん、相手を敬い、感謝をすることで信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人と共に栄える世の中にしようとする、柔道の「自他共栄」の精神が根づいています。こういった柔道の教えや精神は、近隣トラブルを解決するときの根本となります。

井上　そんなふうに柔道に敬意を持っていただけることがうれしいです。柔道家が社会とのつながりを持ち、なにより新たなインフラによって世の中を変えていきたいという田中社長の思いに強く共感しました。

――柔道界とは、どのように連携していくのでしょうか。

田中　まず近隣トラブルで特に多いのが騒音に関するものです。子どもの声や生活音がうるさいといったことが発端になるのですが、当社の相談員が電話でヒアリングし、実はお相手の方も生活音を気にして既に音対策の努力をされているなどの状況を依頼者にご説明するとトラブルが収まるケースは多くあります。だからこそ早期介入がとても大切で、トラブルを事件にさせない防犯インフラが必要になります。そのためには日本中の人たちが私たちのことを認識していただいた上で、相談できる場所だという意識を持ってもらうことが大事だと考えています。また日本全国の柔道場と柔道家が、私たちの活動に一緒に取り組んでくれることに大きな価値があると思っています。

井上　それは私も同じ気持ちです。柔道場が防犯インフラの一助となり、地域との関わりを深めるお手伝いをしていきたいと思います。

また、柔道には「押さば引け、引かば押せ」という言葉があります。これは勝負のときには押されたら引け、引かれたら押せという意味で、心理面での駆け引きを説いています。トラブルは感情のもつれから起きることが多いでしょうから、あえて引くという攻め方も有効なのかもしれませんね。

田中　おっしゃるとおり、事件未満のトラブル対応では感情面からのアプローチが大切になります。その点、当社には感情面からの防犯に取り組んできた専門家がそろっていて、実績に基づいたノウハウもあります。一度高まった感情を収めるのは難しいですが、感情のステップに合わせたコミュニケーションを取ることで、うまく静めることができます。

とはいえ、事件未満のトラブルへの対処法を編み出し、組織化しようとしたときは、多くの人が驚き、無謀だとも言われました。しかし、私たちには元警察官だからこそ人の感情の動きや様々な事柄を肌で感じ、その経験に磨かれた着眼点の鋭さと、8年の実績で築き上げた「感情のステップ」という分析に基づく根拠があります。それらが今のサービス品質につながり、想像以上のスピードで会員数100万人のプラットフォームにまで成長しました。設立時から対応した2万件以上の近隣トラブルでは、全件収束を実現してい

井上　そういった姿勢も共感し
の1つです。これからの柔道
新的なことにチャレンジして
ら新しいものをつくってい
目線を持つことが求められま

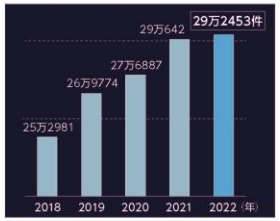
設立8年で会員数は1
新たな防犯インフラ

――社会インフラの構築
れからの目標などはあり

田中　私たちが目指して
件前の近隣トラブル解決
本社会の防犯インフラに
現在の会員数100万を2
約6000万世帯の4％
会員まで普及させる見
ためには認知度を高め
すが、直接伝えるこ
と思っています。井
の皆さんにはそう
力いただきたいと思

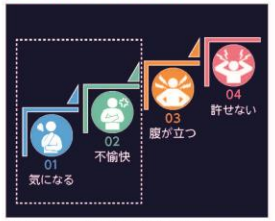
井上　柔道界にも
めとした様々な課
道の多様な価値や
今まさにグラン

●警察における近隣トラブルなどの相談推移



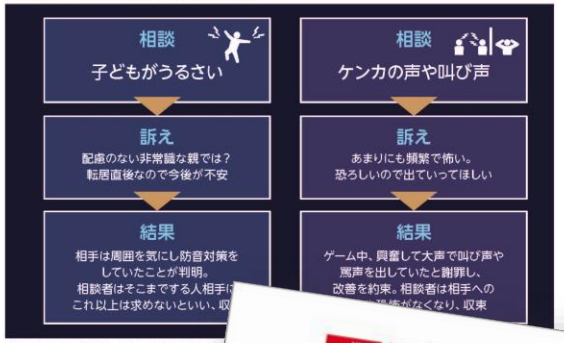
全国の警察への近隣や家庭、職場関係のトラブル相談数は年々増加している　出所：警察庁（2023年3月）

●早期介入でトラブルを収束へ



01「気になる」、02「不愉快」の感情のステップまでに第三者が入ると深刻化は避けられる

●ヴァンガードスミスで収束に導いてきた事例



会員にトラブルが発生した際に連絡を受け、ヴ
を実施。トラブル解決支援を行っている

Vanguard Smith　ヴァンガ
https://v-smith.co.jp/

日経ビジネス（2023年9月25日発行号）